

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171000096
法人名	社会福祉法人 福寿会
事業所名	グループホーム さくら
訪問調査日	平成 19 年 10 月 25 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 20 日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考になしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171000096
法人名	社会福祉法人 福寿会
事業所名	グループホーム さくら
所在地	佐賀県佐賀市諸富町大字諸富津209番地3 (電話) 0952-47-5590

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年10月25日	評価確定日	平成19年12月20日

【情報提供票より】(19 年10 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤	11 人, 非常勤 人, 常勤換算 11 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての1階～3階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22000・32000・40000円	その他の経費(月額)	259 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 780 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 86.4 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小柳記念病院、 斎藤医院、 永田天寿堂医院、 西村歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>筑後川を挟み橋を渡ればすぐ木工の町大川市と隣接する立地であり観光名所である昇開橋も居間の窓から直ぐ眼下に見渡せる。ホーム周囲は桜並木があり散歩道となっている。白亜洋風3階建て、一瞬ホテルの感覚が想像される。内外共のホーム建築である。職員の穏やかな態度に入居者もゆったりとした時間を過ごされている、生活の流れが窺える。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前々回、前回に引続き同様の改善の課題がある事は管理者、職員も十分承知しているが、ハード、ソフト面も含めて総ての面で改善する迄には至っていない。しかし一歩の前進からと前向きに考え食事を楽しむ支援で介助するばかりでなく職員全員が同じものを一緒に食し楽しい雰囲気作り心掛けている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員がそれぞれ自己評価に取組みケアの質の向上に生かせる良い機会ととらえている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議も定期的実施し参加者、内容等も議事録に残されている。今はまだ質問に答える程度の内容であるが今後の課題としてこの会を上手に活用し認知症に対して地域に密着したホームの運営が実現できる様な取組みが望まれる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>一階玄関の見やすい位置に意見箱を設置したり、面会時には積極的な声掛けを行って気軽に意見を出して頂く様に配慮している。意見、苦情には最後迄責任を持ち対処方法の可否を伺うようにしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>敷地周辺が系列施設で占められその間に料亭と小民家が数軒立地する状況の中、屋間は仕事の為人の気配がなく日常生活における地域との連携に難点がある。運営推進会議の活用等で打破に期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関入口及び、各階エレベーター横に独自の理念は掲げられてはいるが地域密着型サービスとしての役割を反映するまでにはない。	○	これ迄の理念に加え地域密着型サービスの役割を理解し、地域や利用者のニーズにあった理念の作成を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時に必ず理念の唱和を行い管理者、職員も十分に理解し共有に努め、日々のケアに生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地的、環境的課題もあり地域の住民が気軽に訪れられ共に暮らすつながり迄には至っていない。	○	利用者と地域がつながりながら暮らしていくことを積極的に支えあうような双方向関係の一層の充実を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員それぞれが理解し今後のケアの質の向上の為に良い機会ととらえている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回を目安として実施されている。ホームについての理解を深めて頂く様努めてはいるが内容把握の質問に答える位で防災、事故等についての協力の話し合い迄には至っていない。	○	入居者の立場にたった地域住民としての意見、提案を出してもらおう為に会議の充実発展を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉行政の最新情報の提供、事業所の実情等を折りにふれ伝えたりする町開催の「施設運営協議会」に月1回出席しサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月末定期的に請求書送付時に日常の様子を写真を添えて伝えている。変化があった時はその都度電話報告。家族の面会時も必ず湯茶のサービスをし要望や気づきを伺いながら日常の暮らしぶり等報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一階玄関に提案箱、最新の自己、外部評価結果も置かれ誰でも見ることができる。家族の面会時は日常の会話の中から気軽に話かけられる雰囲気作りで心掛けている。又、意見、苦情等は最後の採否迄責任を持って解決している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を固定化し顔馴染みの職員によるケアを心掛けている。新人は当分は日勤帯を多くし馴染みの関係作りに努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が片寄らないで内外研修に参加出来る様な体制作りがなされ質の向上に努めている。2ヶ月に1回の全職員参加の会議でも伝達講習が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内外の研修の場が情報収集、交流の場になっている。良い所を吸収し決して真似ではないサービスの質の向上に取り組む姿勢である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の見学体験も可能である。関連施設からの入居もあるゆえ事前の情報収集に向いたりして馴染みの関係作りを行っている。家族の協力を得ながら居心地良い雰囲気作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員からの一方的な関わりではなく能力に応じた支援の仕方に対応し成果があれば共に喜び、不安、苦しみ等を知った時はゆっくり、じっくり時を過ごし共にわかち合おうとするケアに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	タイミングが合わない時もあるが一人ひとりの思いや意向について言葉や表情から把握に努め予定外でも出来る限り希望に沿う様努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、及び家族の希望、意見を聞きながらの具体的な計画になっている。署名、捺印もなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が見られない継続の場合は6ヶ月毎に、変化に応じてはその都度見直しがなされ、その評価は「支援経過表」に記載している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時の医療機関への通院介助、定期的な訪問診療、外出、外泊支援に対し車椅子対応の車提供と送迎介助等柔軟な対応が出来る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の確認を行いそこを大切に頂く様家族へも説明がなされている。定期的な訪問診療の確保も出来ている。年2回の健康診断は経営母体の医療機関を利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期になると現状では医療機関での対応をしており、看取りへの対応は現在模索中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の目的は全職員理解している。共有スペースの掲示物は施設内と限定し、入居者、家族の了解を得た掲示の仕方である。尊厳を念頭に置き声かけや排泄、入浴支援にも心配りがある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者中心のペースが尊重され入居者はやりたい様に自由に過ごし、職員は強制はしないが決して放任する事なく一人ひとりに合ったケアに、又出来ない所をサポートする支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が調理のわずらわしさから開放され旅行に行ったような雰囲気味わってみたいとの思いで設立されたホームゆえ、食事は一切元料亭の板前による提供である。入居者、職員は同じものを一緒に食し楽しい語らいの場となっている。食後の下膳、食器の後片付けは職員共々行われている。	○	暮らしの場面として買い物、調理、食事、後片付けなどを利用者の個々の力を活かしながら、その人がそのことをやってみたいという前向きな意志や気持ちを引き出すような場面作りへの取り組みも期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回午後より体調、プライバシーにも配慮しながら一対一の入浴支援を行っている。入浴拒否がある時は家族も巻き込んで一緒に入って頂く事も出来る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中から得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう仕事を頼み調理以外の水遣り、掃除、洗濯行為一連やクラブ活動的趣味の分野にも精が出せるような支援が実施されている。感謝の言葉と共に駄菓子の差入れで一段と楽しみに繋がっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の気持ちを大切に体調を見計らいながら片寄らない様な支援に心掛けている。季節毎の外出は勿論急な要望にも出来るだけ対応する様にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の安全を重視して1階玄関から24時間鍵がかけられた状態である。入居時には家族へも十分説明がなされている。	○	管理者、職員共々鍵をかけることの弊害はよく熟知しており、圧迫感を感じさせない様内部は長い渡り廊下で併設施設へ往来出来る様改築がなされているが鍵をかけられ自由に外に出られないことについて、利用者個々の立場に立って考え、日中鍵をかけないで支援していく為の一層の工夫と検討を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回消防署を交えて併設施設と共に訓練を行っている。	○	夜間の当直が一人という事もあり今後は入居者と地域の協力も得られる様な訓練、体制作りに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士によって献立が作られている。摂取量もきちんと記載され、夜間の水分補給として各人のペットボトルがベット傍に用意され栄養バランス、水分量も大まかに把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設立目的が、老後は家事のわずらわしさから解放とされ、全体的に洋風の建築として明るく2階の台所に限っては調理する光景が見渡せる構造である。天気の良い日は唯一和風が感じられる障子で日差しを除去に努めている。廊下には行事後の写真が飾られている。	○	桜の時期に撮影した写真と、最近の運動会の写真が飾ってあるが季節に合った掲示も期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床頭台、ベット、ロッカー、椅子、カーテンは備え付けのものになっているが、折りに触れ家族へは使い慣れた物の持ち込みを推奨している。中にはあんま器、テレビ、鏡台等の持ち込みもあり、それぞれに馴染みのものを生かしての生活が出来ている。		